

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成22年4～6月期

【調査結果のポイント】

～業況は5期連続マイナス幅縮小、製造業を中心に着実な改善が続く～

- 「業況DI」(全業種)は、前年同期比で前回調査に比べ+11.5ポイント(▲46.3→▲34.8)と大幅に上昇、5期連続でマイナス幅が縮小した。来期見通しも5期連続でマイナス幅が縮小(▲34.2→▲24.8)した。リーマンショック(平成20年7-9月期)前の水準まで回復している。
- 業種別では、製造業の回復が顕著。「業況DI」の前年同期比では、前回調査に比べ+27.3ポイント(▲45.3→▲18.0)と大幅に上昇、力強い改善が見られる。他にサービス業でも大幅に改善している。
- 「資金繰りDI」(全業種)は、前年同期比、今期水準、来期見通しいずれもマイナス幅が縮小、「民間金融機関の貸出姿勢DI」(全業種)は、前年同期比、今期水準ともに2期連続でマイナス幅が縮小した。資金調達面は総じて改善傾向にある。

【調査要領】

○調査期間：平成22年5月26日～6月1日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,361社

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：996社(回答率42.2%)

※有効回答企業の業種別構成

- | | | |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| ・製造業 269社 (27.0%) | ・建設業 133社 (13.4%) | ・卸売業 144社 (14.5%) |
| ・小売業 139社 (14.0%) | ・サービス業 311社 (31.2%) | |

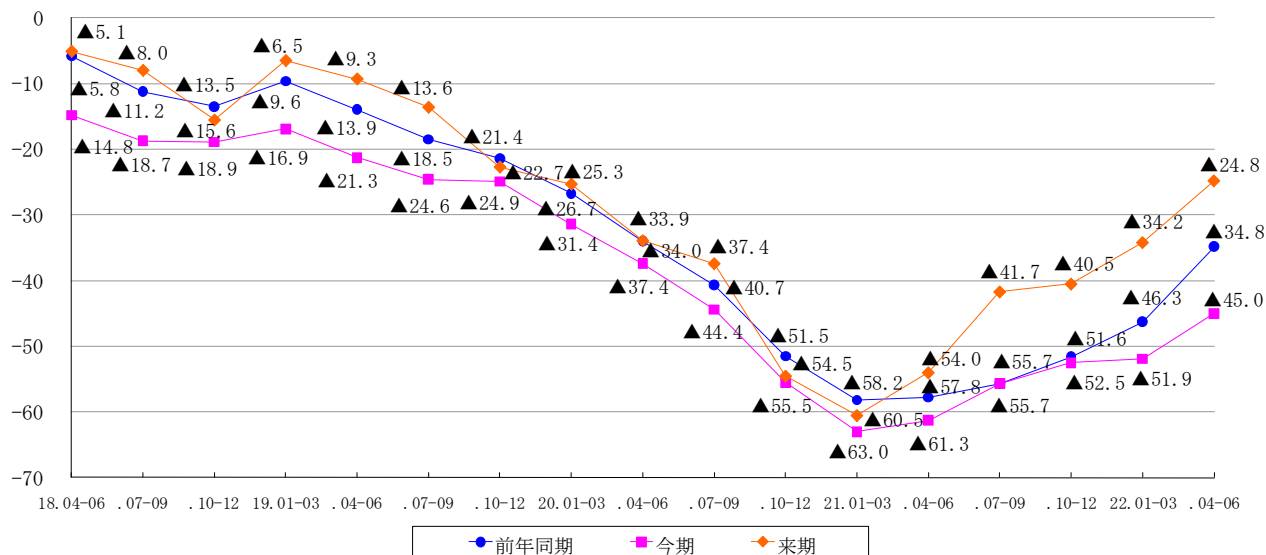
平成22年7月

東京商工会議所 中小企業部

1. 業況

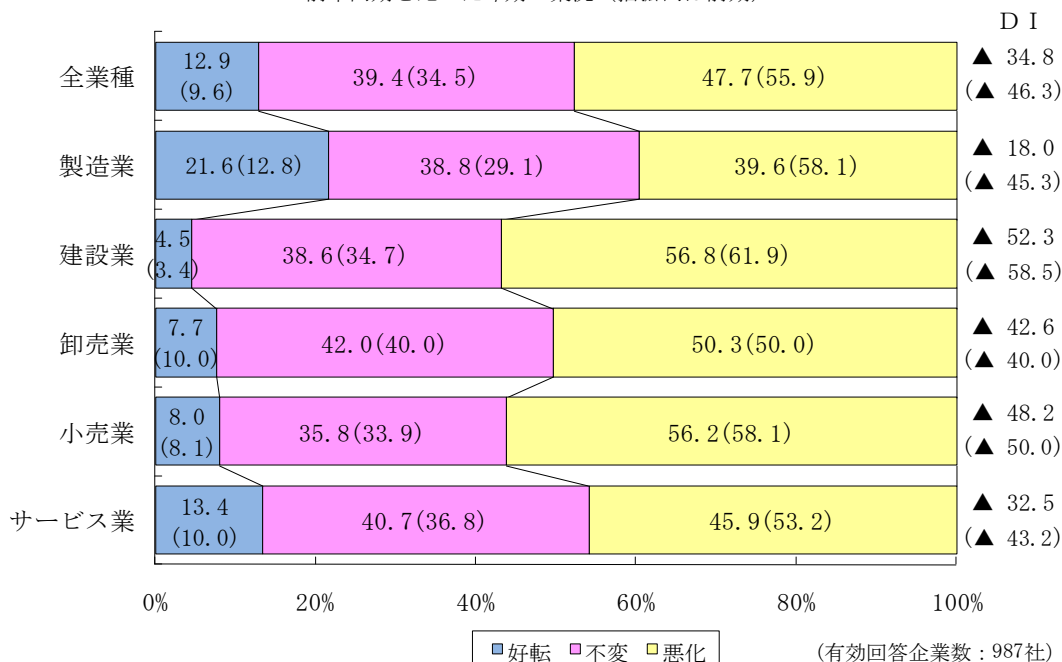
○「業況DI」（全業種）は、前年同期比で5期連続マイナス幅が縮小した。今期水準でも前回の横ばいから再びマイナス幅が縮小、来期見通しも5期連続マイナス幅が縮小した。リーマンショック（平成20年7～9月期）前の水準まで回復している。製造業とサービス業が前年同期比、今期水準、来期見通しいずれも大幅に改善したほか、今期水準では卸売業でも改善が見られた。

業況DIの推移（全業種）



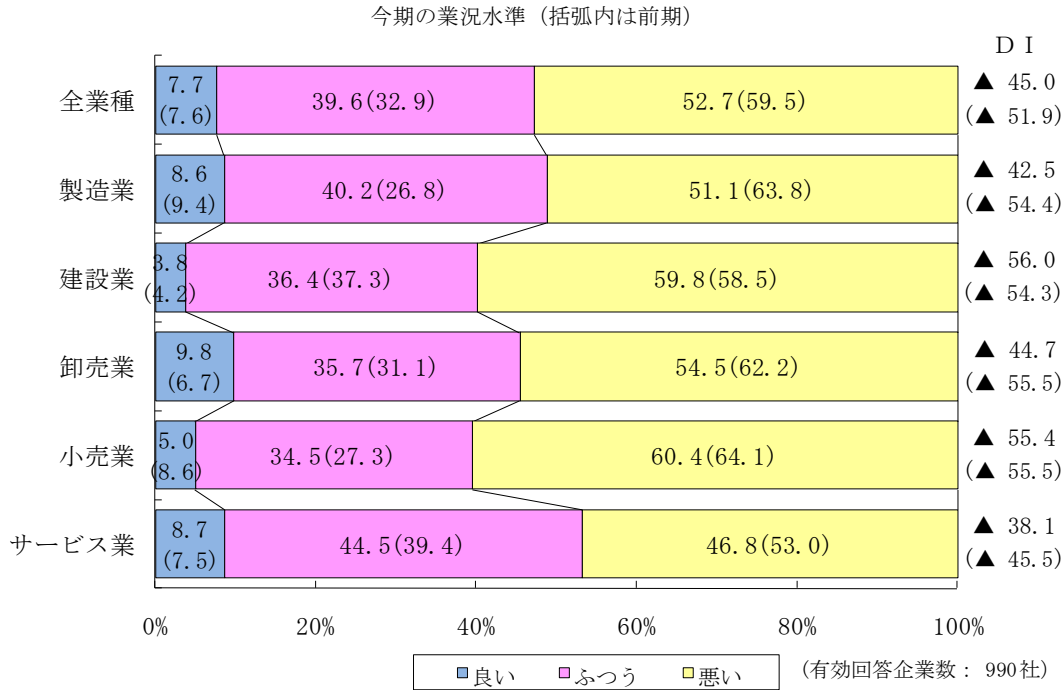
【質問1】前年同期（平成21年4～6月期）と比べた今期（平成22年4～6月期）の業況（自社）はどうか。

前年同期と比べた今期の業況（括弧内は前期）



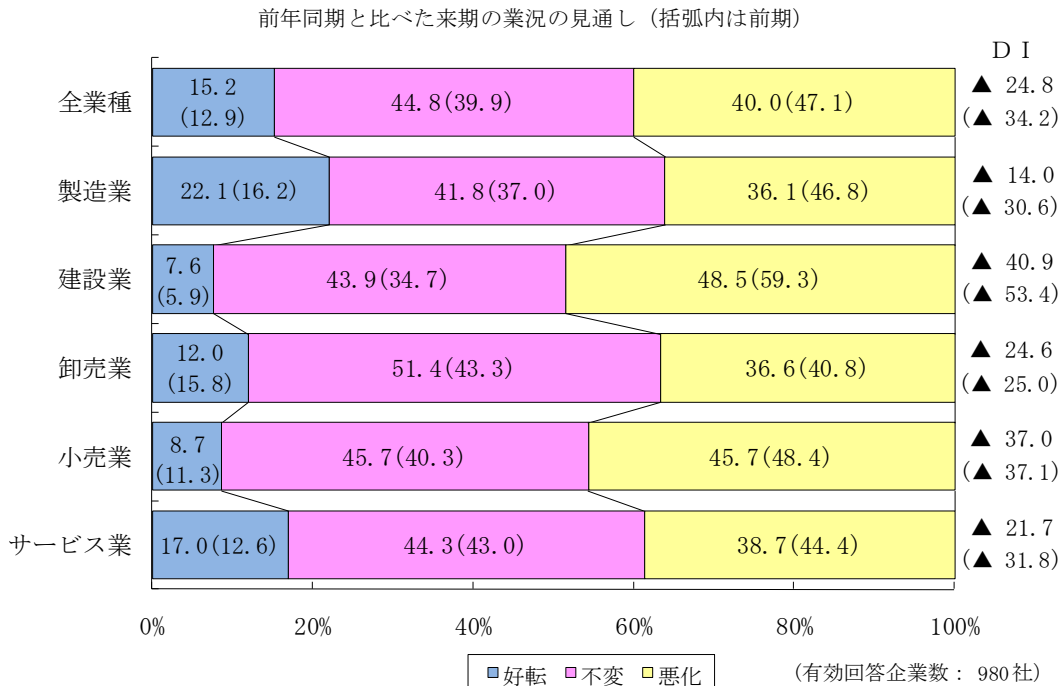
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の業況DI」は▲34.8と前回調査に比べ+11.5ポイントとなり、5期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・卸売業を除く全ての業種でマイナス幅が縮小、特に製造業では▲18.0と前回調査に比べ20ポイント以上、サービス業でも10ポイント以上マイナス幅が縮小、建設業でも改善が見られた。

【質問2】 今期（平成22年4～6月）の業況（自社）水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の業況水準DI」は▲45.0と前回調査に比べ+6.9ポイントとなり前回調査時の横ばいから再びマイナス幅が縮小した。
- ・製造業と卸売業で前回調査に比べ10ポイント近くマイナス幅が縮小、サービス業でも改善が見られた。建設業と小売業ではほぼ横ばいとなった。

【質問3】 前年同期（平成21年7～9月期）と比べた来期（平成22年7～9月期）の業況（自社）の見通しはどうか。

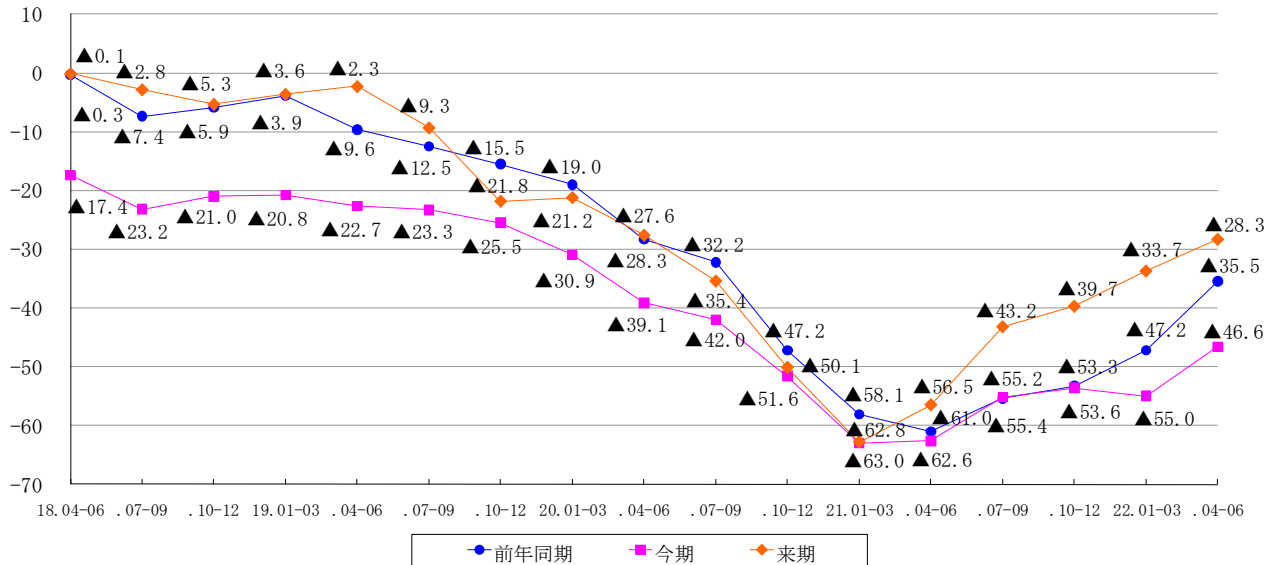


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の見通しDI」は▲24.8と前回調査に比べ+9.4ポイントとなり、5期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、建設業、サービス業で前回調査に比べ10ポイント以上と大幅にマイナス幅が縮小した。卸売業と小売業ではほぼ横ばいとなった。

2. 売上

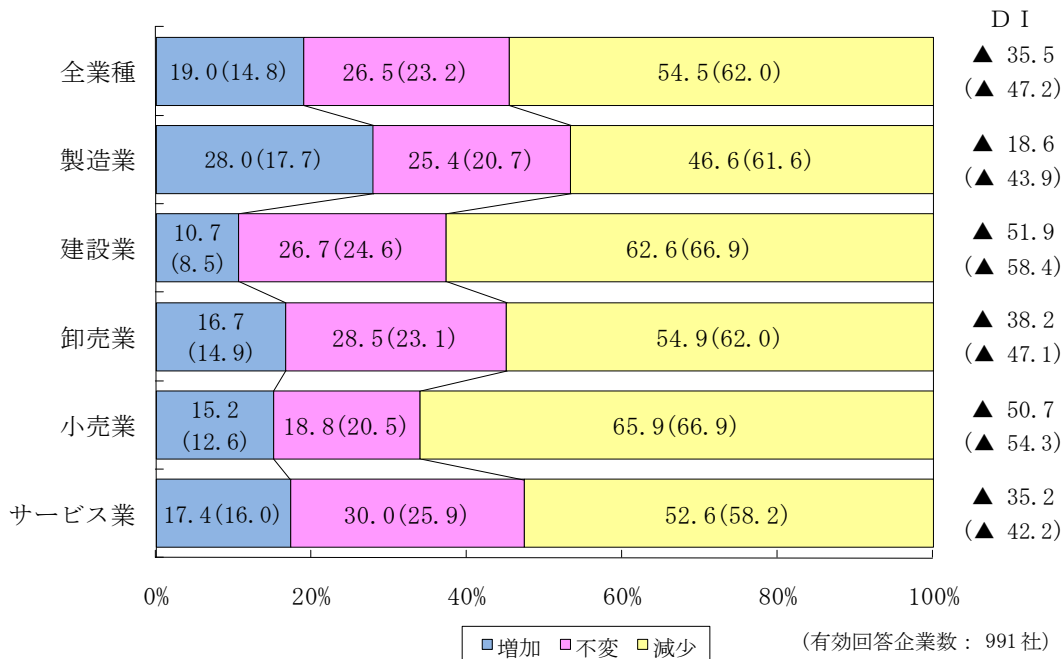
○「売上DI」(全業種)は、前年同期比で4期連続マイナス幅が縮小した。今期水準では前回の横ばいから再びマイナス幅が縮小、来期見通しも5期連続マイナス幅が縮小した。製造業が前年同期比、今期水準、来期見通しいずれも大幅に改善したほか、今期水準では卸売業とサービス業でも改善が見られた。

売上DIの推移(全業種)



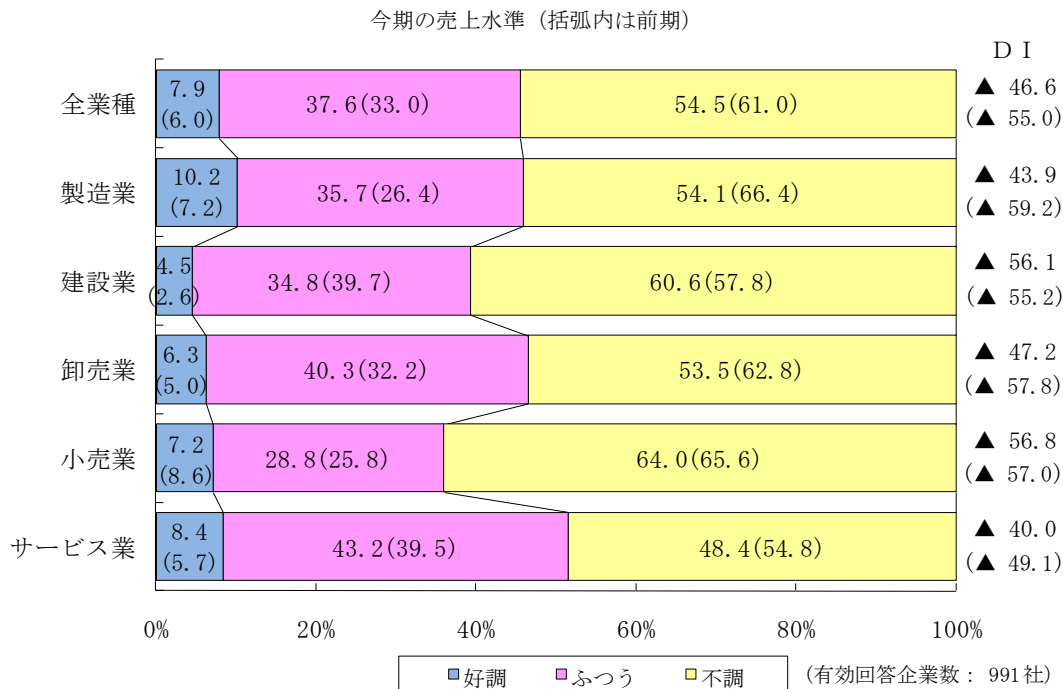
【質問4】前年同期(平成21年4~6月期)と比べた今期(平成22年4~6月期)の売上状況はどうか。

前年同期と比べた今期の売上状況(括弧内は前期)



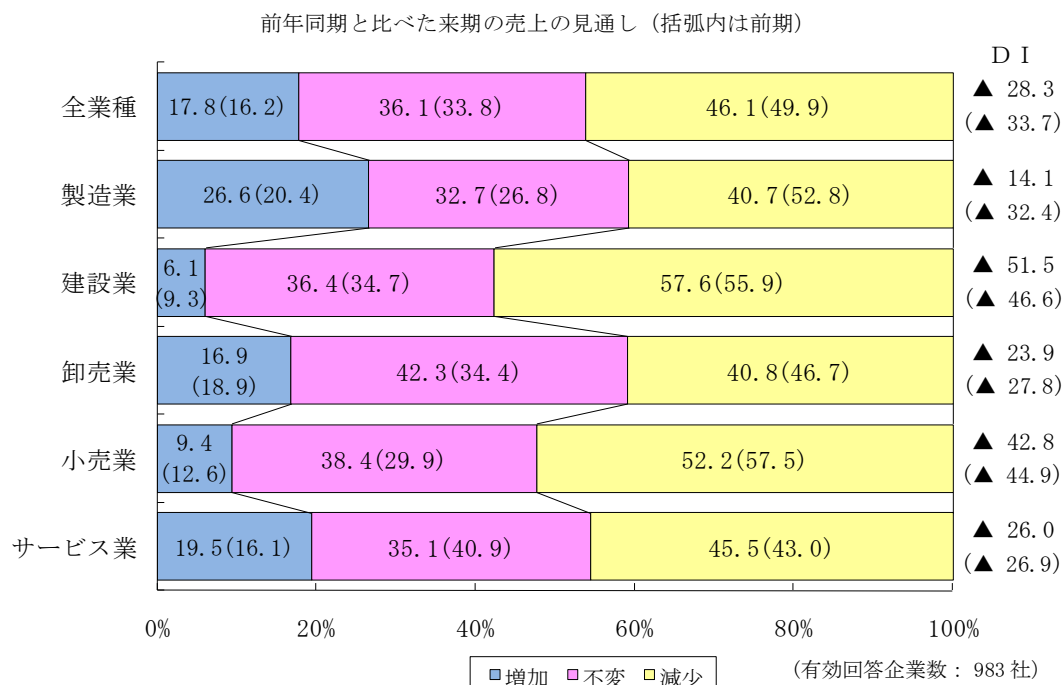
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の売上DI」は▲35.5と前回調査に比べ+11.7ポイントとなり、4期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業では前回調査に比べ20ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅な改善が見られた。

【質問5】 今期（平成22年4～6月期）の売上水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の売上水準DI」は▲46.6と前回調査に比べ+8.4ポイントと前回調査時の横ばいから再びマイナス幅が縮小した。
- ・製造業と卸売業では前回調査に比べ10ポイント以上マイナス幅が縮小、サービス業でも改善が見られた。建設業と小売業ではほぼ横ばいとなった。

【質問6】 前年同期（平成21年7～9月期）と比べた来期（平成22年7～9月期）の売上の見通しはどうか。

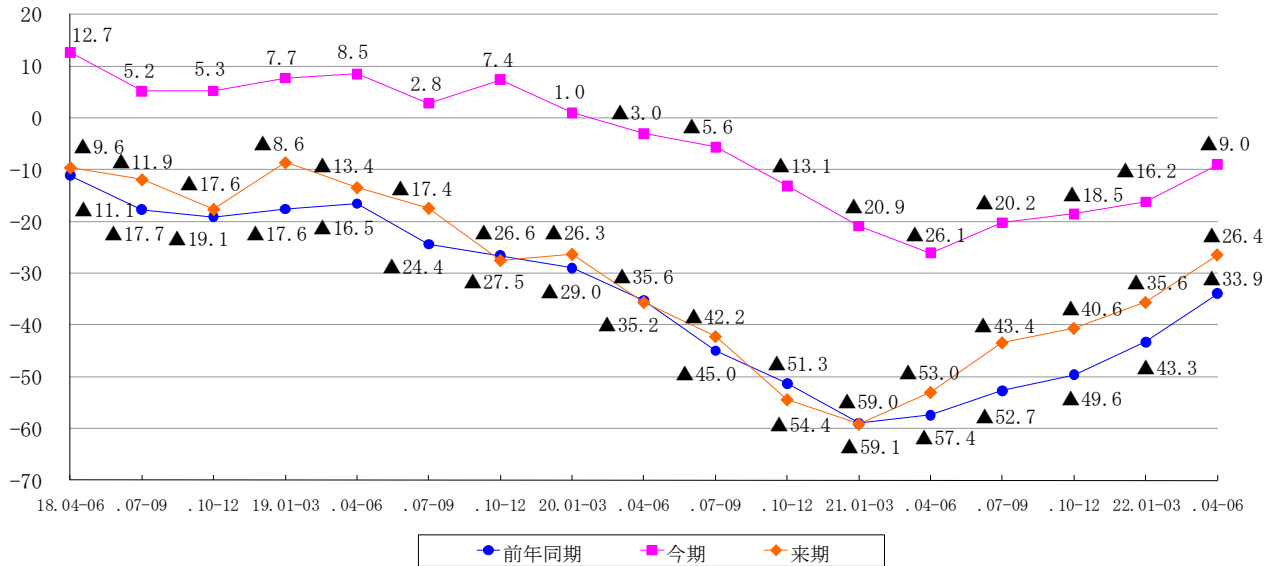


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の売上見通しDI」は▲28.3となり、前回調査に比べ+5.4ポイントとなり、5期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、卸売業、小売業でマイナス幅が縮小、特に製造業では前回調査に比べ10ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅な改善が見られた。サービス業ではほぼ横ばい、建設業ではマイナス幅が拡大した。

3. 採算（経常利益）

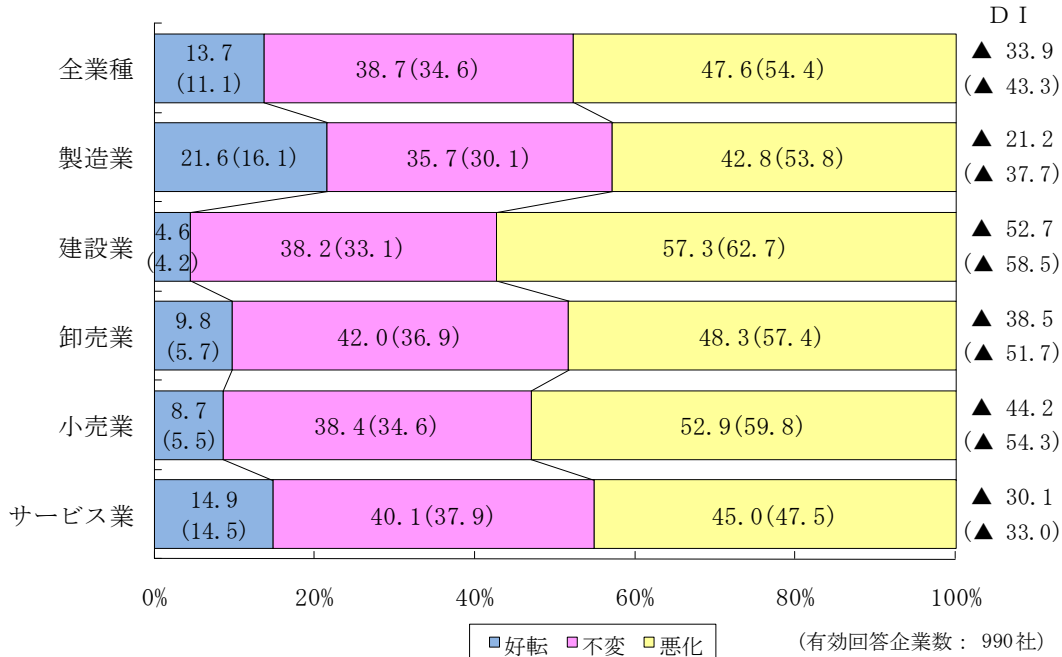
○「採算DI」（全業種）は、前年同期比で5期連続マイナス幅が縮小した。今期水準では4期連続マイナス幅が縮小、来期見通しも5期連続マイナス幅が縮小した。製造業が前年同期比、今期水準、来期見通しいずれも大幅改善、前年同期比と今期水準では小売業が大幅に改善した。サービス業は今期水準で平成20年10-12月期以来のプラスに転じた。

採算DIの推移（全業種）



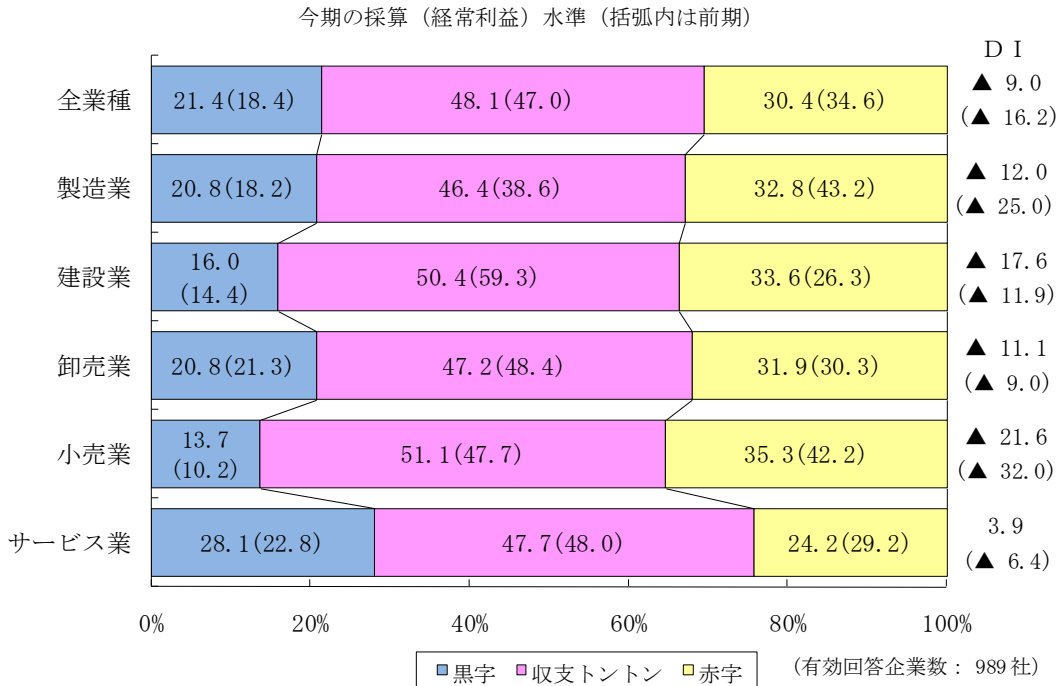
【質問7】前年同期（平成21年4～6月期）と比べた今期（平成22年4～6月期）の採算（経常利益）状況はどうか。

前年同期と比べた今期の採算（経常利益）状況（括弧内は前期）



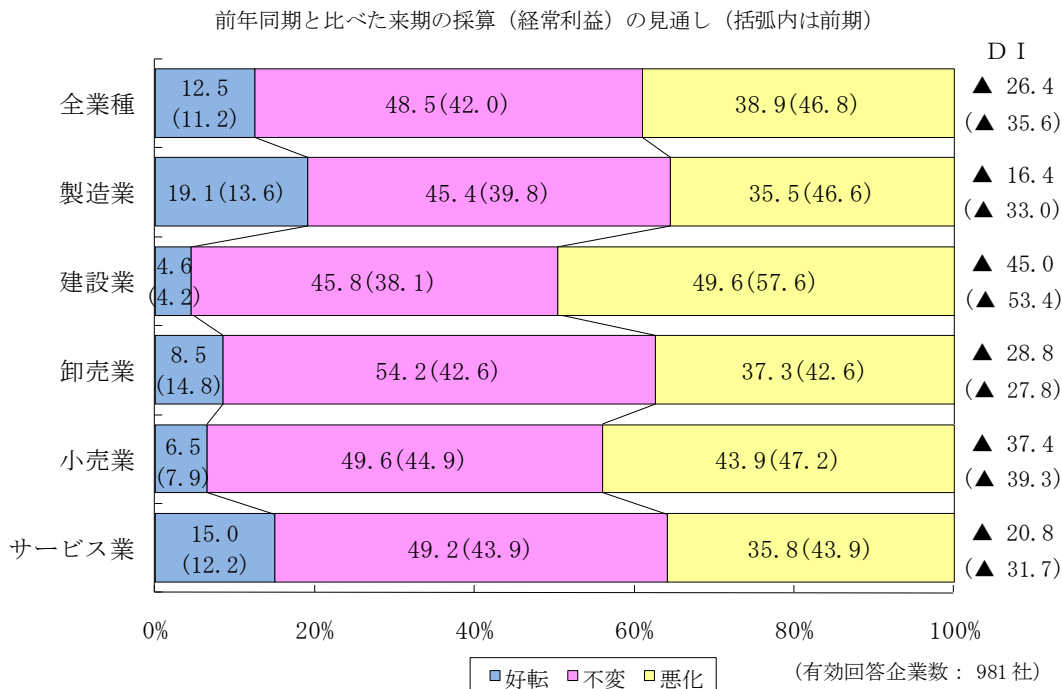
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の採算DI」は▲33.9と前回調査に比べ+9.4ポイントとなり、5期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業、卸売業、小売業では前回調査に比べ10ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅な改善が見られた。

【質問8】 今期（平成22年4～6月）の採算（経常利益）水準はどうか。



- ・全業種の「今期の採算水準 DI」は▲9.0 と前回調査に比べ+7.2 ポイントとなり、4 期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・製造業、小売業、サービス業で前回調査に比べ 10 ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅な改善が見られた。その他の業種ではほぼ横ばいとなった。

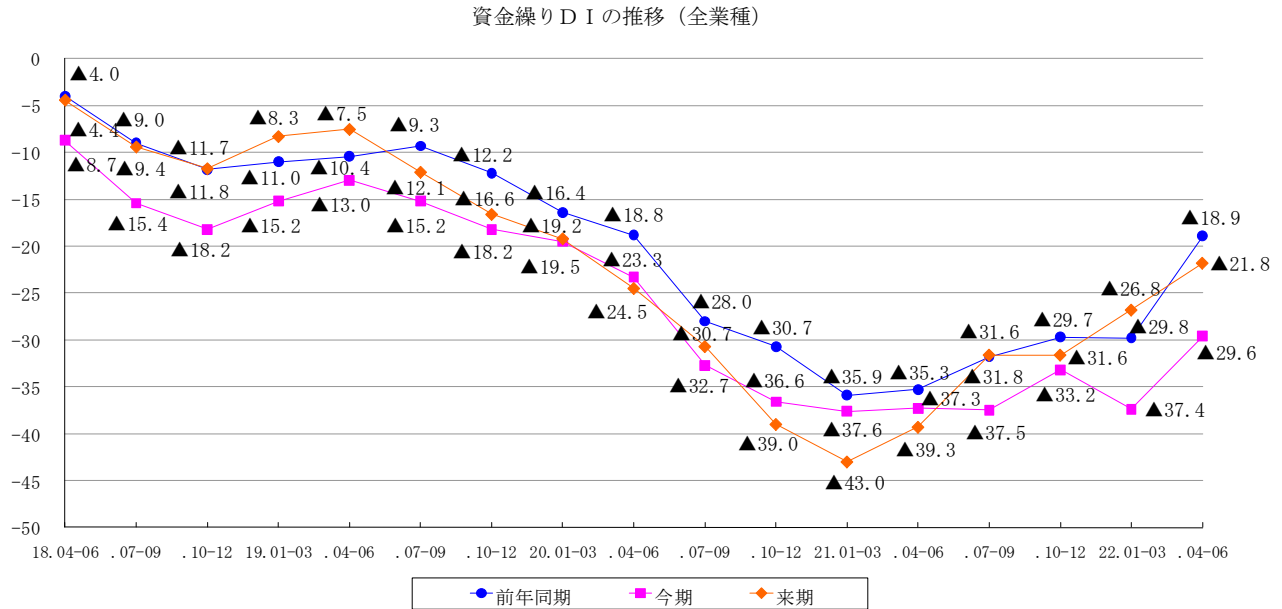
【質問9】 前年同期（平成21年7～9月期）と比べた来期（平成22年7～9月期）の採算（経常利益）の見通しはどうか。



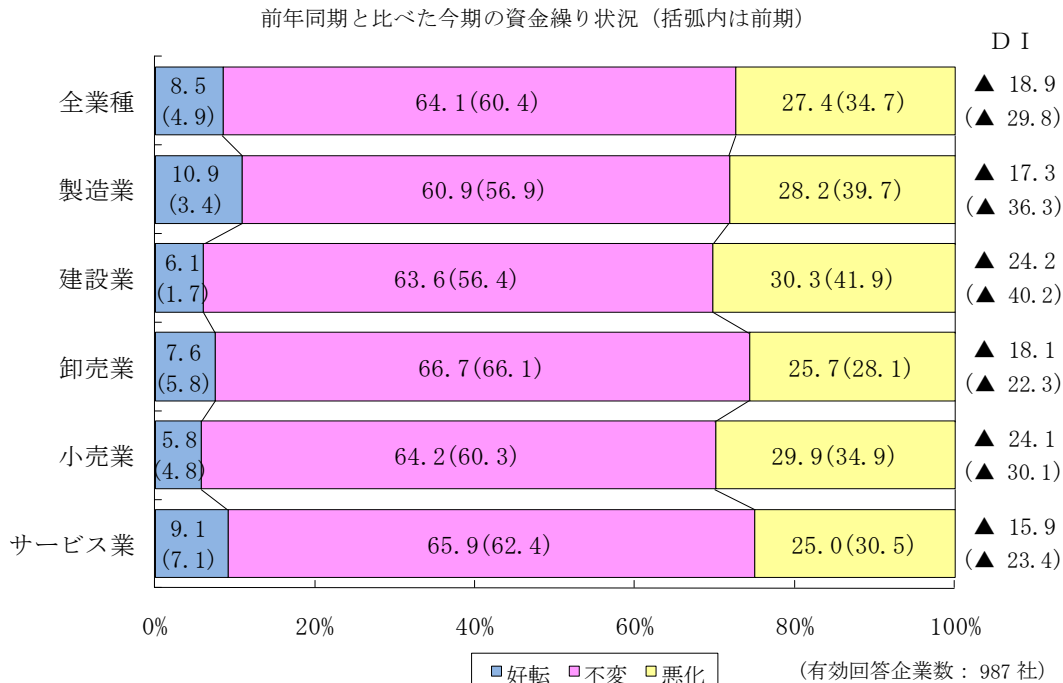
- ・全業種の「前年同期と比べた来期の採算見通し DI」は▲26.4 と前回調査に比べ+9.2 ポイントとなり、5 期連続でマイナス幅が縮小した。
- ・卸売業を除く全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業、サービス業では前回調査に比べ 10 ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅な改善が見られたほか、建設業でも改善が見られた。

4. 資金繰り

○「資金繰りDI」(全業種)は、前年同期比、今期水準、来期見通しいずれもマイナス幅が縮小した。製造業が前年同期比、今期水準、来期見通しいずれも大幅に改善したほか、前年同期比では建設業、今期水準ではサービス業が大幅に改善した。

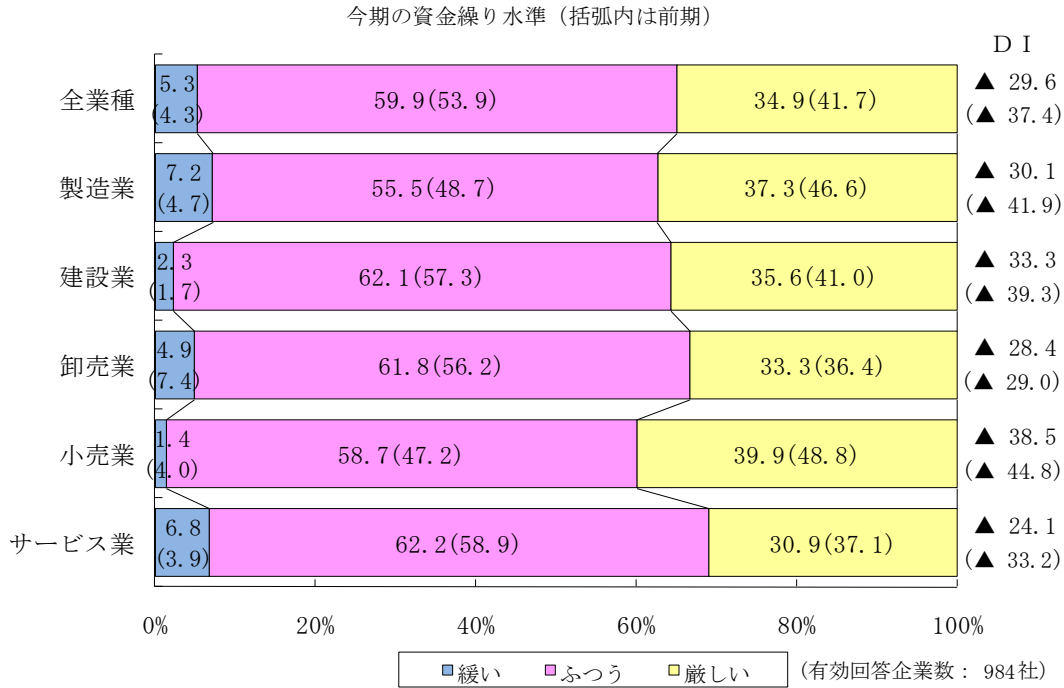


【質問10】前年同期(平成21年4~6月期)と比べた今期(平成22年4~6月期)の資金繰り状況はどうか。



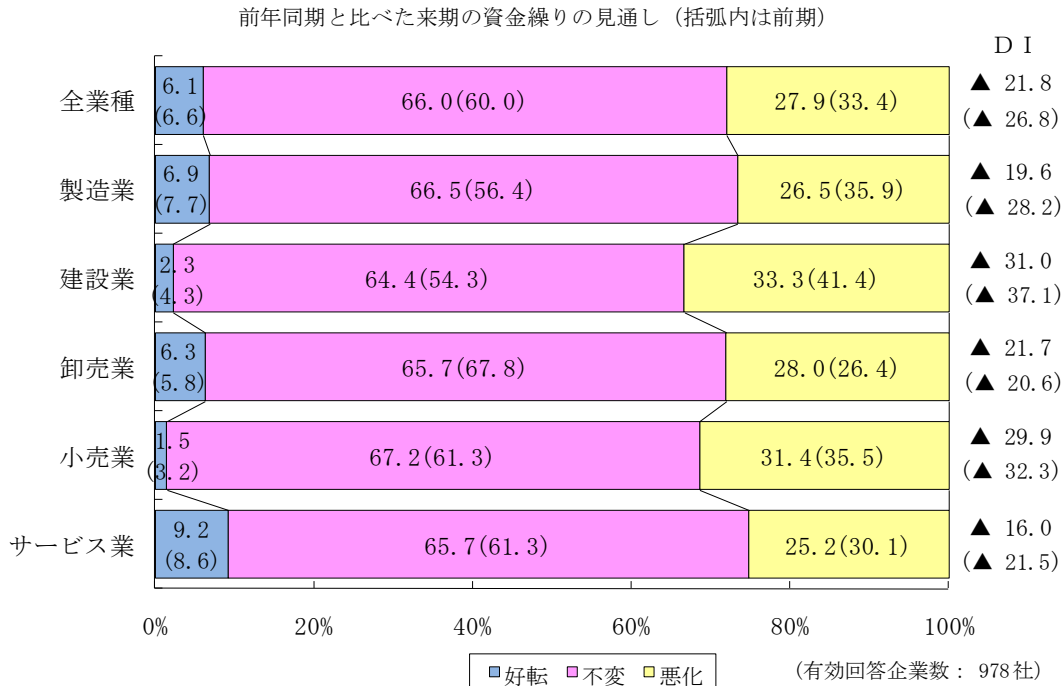
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の資金繰り水準DI」は▲18.9と前回調査に比べ+10.9ポイントと前回調査時の横ばいから再びマイナス幅が縮小した。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業と建設業では前回調査に比べ10ポイント以上マイナス幅が縮小、大幅に改善した。

【質問 1 1】 今期（平成 22 年 4～6 月期）の資金繰り水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の資金繰り水準DI」は▲29.6 と前回調査に比べ+7.8 ポイントとなり、前回調査時のマイナス幅拡大から縮小に転じた。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小、特に製造業では前回調査に比べ10 ポイント以上マイナス幅が大幅に縮小、サービス業でも大幅な改善が見られた。

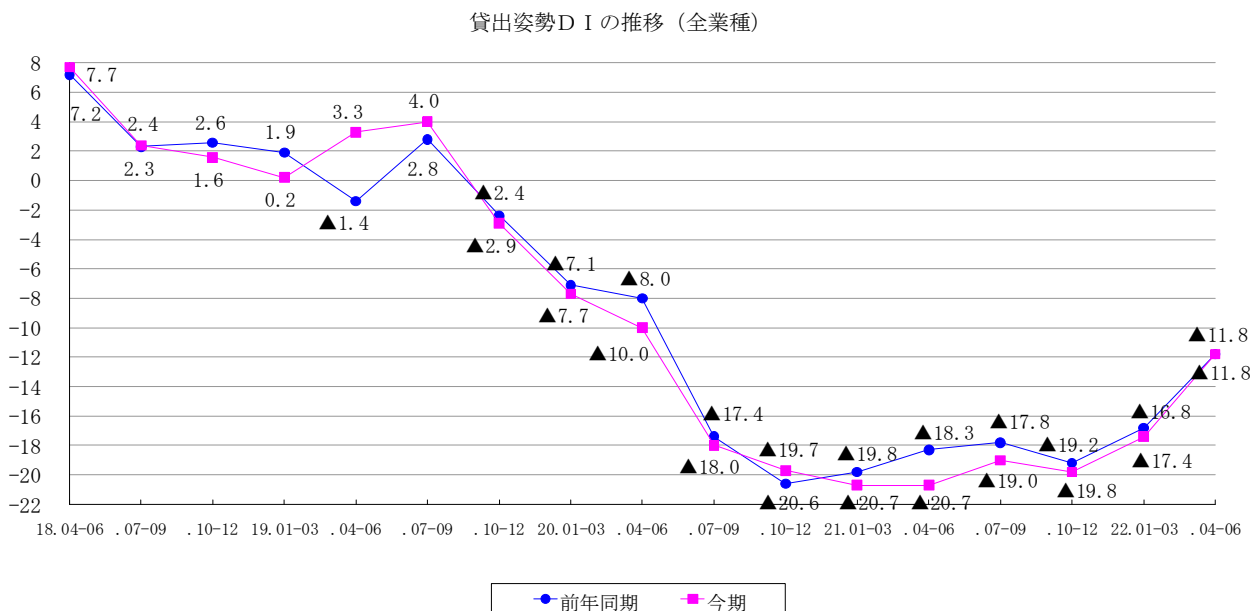
【質問 1 2】 前年同期（平成 21 年 7～9 月期）と比べた来期（平成 22 年 7～9 月期）の資金繰りの見通しはどうか。



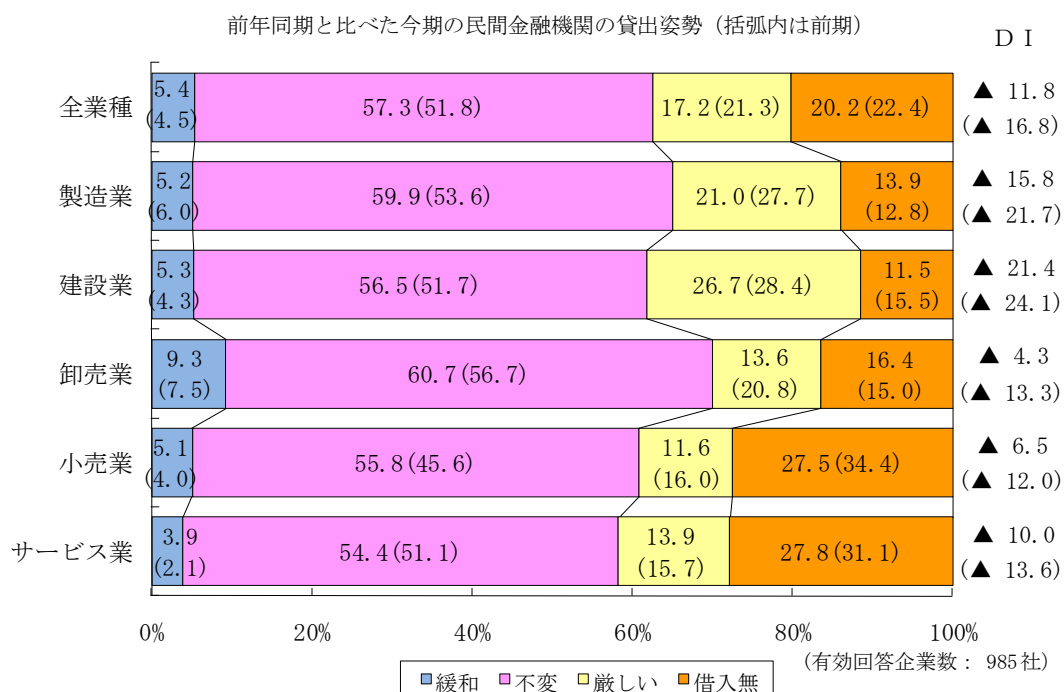
- ・全業種の「前年同期と比べた来期の資金繰り見通しDI」は▲21.8 と前回調査に比べ+5.0 ポイントとなり、2期連続マイナス幅が縮小した。
- ・卸売業を除く全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業では前回調査に比べ10 ポイント近くマイナス幅が大幅に縮小、大幅な改善が見られた。

5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢DI」（全業種）は、前年同期比、今期水準ともに2期連続マイナス幅が縮小した。貸出姿勢は総じて緩和傾向にある。

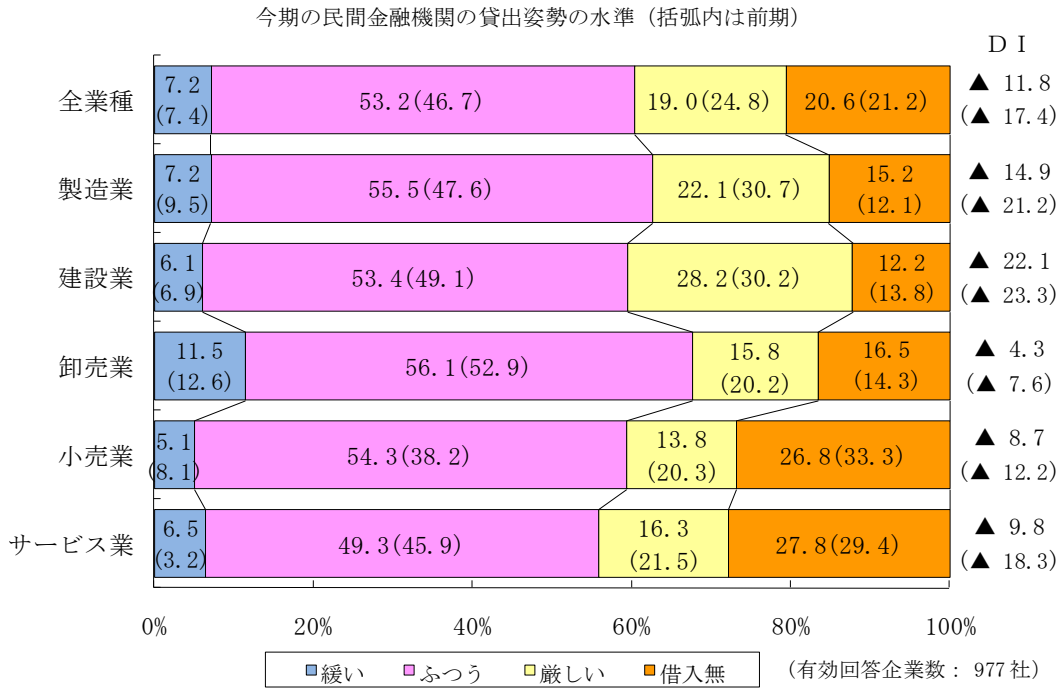


【質問13】前年同期（平成21年4～6月期）と比べて、今期（平成22年4～6月期）の民間金融機関の貸出姿勢は、変化がありましたか。



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は▲11.8と前回調査に比べ+5.0ポイントとなり、マイナス幅が縮小した。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小した。小売業では前回調査に比べ借入無しが6.9ポイント減少、次いで建設業（-4.0ポイント）、サービス業（-3.3ポイント）で借入企業が増加している。

【質問 1 4】今期（平成 22 年 4～6 月期）の民間金融機関の貸出姿勢の水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の民間金融機関の貸出姿勢 DI」は▲11.8 と前回調査に比べ+5.6 ポイントとなり、マイナス幅が縮小した。
- ・全ての業種でマイナス幅が縮小した。小売業では借入無しが前回調査に比べ6.5 ポイント減少、借入企業が増加している。

- ※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」とする企業の割合から、「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値を表す。
- ※ 本集計結果における前期とは、平成22年1月～3月期調査を表す。
- ※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。
- ※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。